

3月
定例会

平成31年度当初予算（総額793億5,644万円）、
平成31年度補正予算（総額7億7,352万9千円）、
平成30年度補正予算（総額32億363万8千円）を可決！

平成31年第2回3月定例会は2月26日から会期23日間で開催し、3月20日に閉会しました。

この間、市長提出の議案43件を審議し、最終日の3月20日には、議案などの採決を行いました。

また、3月4日から6日の3日間、3会派の代表者が代表質問を、議員15人が議案質疑と一般質問を行いました。発言の要旨は、会派別に4ページから8ページに掲載しています。

自民クラブ

伊藤 孝 司 議員



- (代表質問)
- 1 平成31年度に向けての市長の所信について
 - 2 外国人労働者の受け入れ拡大について
 - 3 水問題について

勝ち残る自治体になるための経営戦略は？

問

人口急減・超高齢社会が到来することにより、生産年齢人口の減少に伴う産業活動への影響や社会福祉経費の増加による行財政運営への影響など、さまざまな問題が山積しているが、そうしたことを憂慮しているばかりでは一歩も前に進めない。市長は「都市間競争におけ

る生き残りではなく、勝ち残るまちを目指す」という表現をしているが、本市が地域主権時代を勝ち抜いていくために、今後、具体的にどのような自治体経営を行っているのか。

答

平成31年度は陸上の三段跳びに例えると、未来（あす）への大ジャンプにつながるための力強いステップの1年であり「未来（あす）への挑戦」をキャッチフレーズに、各種施策に積極的に取り組むこととしている。

本市が、生き残りではなく、勝ち残る自治体となるために、攻めの姿勢で市政運営に取り組んでいく一方で、次世代に過度な負担を残すことがないよう「低負担高福祉」から「中負担中福祉」への転換は避け、通れないところであり、市民への丁寧な説明を行いながら、行政システムや公共インフラの在り方について検討していくことが必要と考えている。

併せて、平成31年度は総合計画をはじめ各種計画の見直し時期に当たることから、あ

らためて将来人口をしっかりと見据えた上で、持続可能なまちづくりを進めていきたい。

堀江 幸 二 議員



- (一般質問)
- 1 水資源の保全について
 - 2 工業用地について
 - 3 西条祭りについて
 - 4 高瀬の滝について

西条の水資源を

守り抜く！

問

松山市からの分水の要望に対して、市外に水を出すべきではないと思うが、地下水の現状と過去の渇水状況を踏まえて、どのように考えているのか。

答

西条平野では、農業用水の地下水利用が急増する灌漑期に加茂川の流量が低下すると地下水位が大幅に

下がり、沿岸部で地下水の塩水化が進行すること、周桑平野では、扇状地の末端地域で硝酸態窒素濃度が高いことが問題となっている。

近年の渇水状況は、平成6年の大渇水以降、平成17年、19年、20年にも少雨のため地下水位が低下し、自噴が止まるなどの渇水状況に見舞われたが、その後、降雨により渇水が解消されている。

こうした状況から、特に、西条平野の主たる地下水涵養源である加茂川の水資源は、流域内で有効に活用し、先人が築き上げてきた地域資源として、市の発展のために、次の世代に渡すことが務めであると考えている。



灌漑期に流量が低下する加茂川